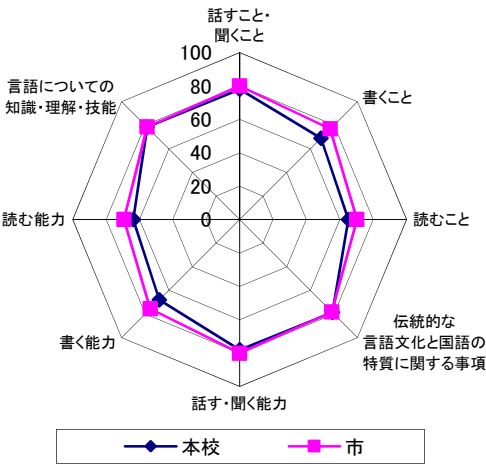


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	78.0	80.1	77.9
	書くこと	69.0	76.8	65.3
	読むこと	65.2	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.7	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	78.0	80.1	77.9
	書く能力	67.9	75.6	64.2
	読む能力	63.7	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	78.3	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

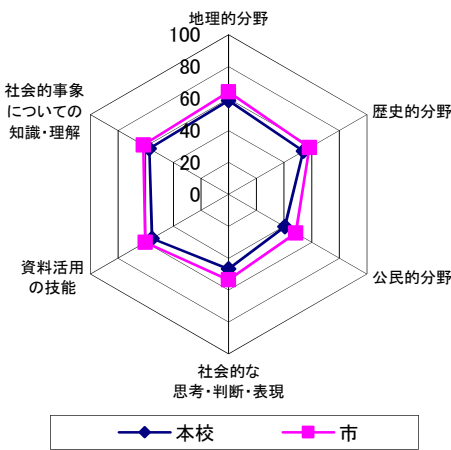
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・市の平均を2.1ポイント下回っている。 ●「話の内容を正確に聞き取ることができる」において市平均より2.1ポイント下回っている。	・「話すこと」では、「スピーチ」の授業や「物事やものを説明する」内容を扱い、聞き手に話し手の伝えたい内容を理解してもらえるように、内容構成を指導する。 ・「聞く」では、聞き取りテストの回数を学期ごとに4回実施することや聞き取りミニテストを授業の最初などに行い、話を聞くポイントを確認する機会を増やす。
書くこと	・市の平均を7.8ポイント下回っている。 ●「…書き抜きなさい」の問題に対して「書きなさい」の問題に、特に苦手意識が強い。	・作品に対して、自分の考えをまとめたり、感想を書いたりする機会を増やす。 ・自分の考えを相手に伝えるために、効果的な文章の書き方や構成の仕方などを細かく指導していく。
読むこと	・市の平均を5.1ポイント下回っている。 ●「説明文の内容を読み取る」や「文章の展開に即して内容をとらえる」項目で、市平均よりも2～5ポイント下回っている。	・説明的文章の要約をするときの、キーワードの選び方や、内容を省略しまとめるときのポイントを指導する。 ・物語教材では、四コマ漫画やイラストなどで、ストーリー展開がより理解できるようにしながら、内容がとらえられるように、指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・市の平均を0.4ポイント上回っている。 ○「類義語・対義語」「歴史的仮名遣い」「敬語」で市平均より上回った。 ●「漢字の読み」「漢字の書き」「用言の活用」では、市平均より下回った。	・授業の開始時に行う漢字の小テストは習慣化されており、漢字の反復練習の一助となっている。今後も継続して行っていく。 ・過去の高校入試問題を取り入れて、語句に関する問題を復習したことや、一つ一つ解説をしたり、他の例題で復習したり力を入れてきた成果だと思われる。今後も継続して指導していく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	58.8	64.1	57.5
	歴史的分野	54.0	58.4	52.8
	公民的分野	40.6	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	46.7	53.6	47.5
	資料活用 の技能	55.5	60.3	53.3
	社会的事象 についての知識・理解	57.4	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

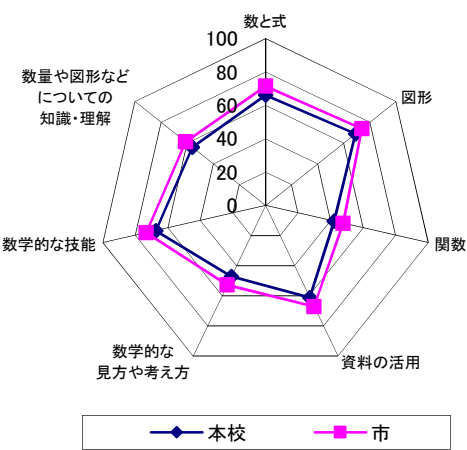
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	市の平均正答率と比べ、5. 3ポイント下回った。 ○世界の鉱産資源の分布を資料から読み取る問題への正答率は高く、さまざまな世界地図の特色を把握する問題では、市の正答率とほぼ同じだった。 ●日本各地の気候の特色について資料を基に判断したり、日本の工業地域における課題解決について、複数の資料をもとに探求し表現したりする問題での正答率は市の平均を下回った。	・日本の諸地域についての学習内容の定着がやや弱いところがある。今後繰り返し学習を行う習慣づけを行う。 ・複数の資料を読み取り、自分の考えを導き出す問題が苦手なので、資料の読み取りや活用の時間を、さらに充実させ確保していく。 ・特に日本国内の産業についての知識の定着を図るとともに、地方独自の特色について具体的事例をもとに調べ、まとめる時間を確保する。
歴史的分野	市の平均正答率と比べ、4. 4ポイント下回った。 ○飛鳥時代にかかわる事項や遣隋使や大宝律令についての知識理解を問う問題への正答率は市の平均より高かった。 ●平城京のつくりの特色について、複数の資料をもとに探究し表現する発問や、江戸時代の農業の発達による影響について考察する問題など、社会的な思考・判断・表現に関する問題への正答率は低かった。	・複数の資料を読み取り、自分の考えを導き出す問題の正答率が低いので、資料の読み取りや活用の時間を、さらに充実させ確保していく。 ・近世の日本の内容の定着がやや弱いところがあるので、学習を繰り返すことにより、再度知識・理解の定着を図る。 ・社会的な思考・判断・表現に関する問題への正答率が低いことから、自分の言葉で表現する能力を育成するため、授業の中で自分の考えを表現させたり記述させたりする場を、数多く設定するよう工夫する。
公民的分野	市の平均正答率と比べ、7. 9ポイント下回った。 ○日本国憲法の三つの基本原理を理解しているかという、知識理解を問う問題への正答率は市の平均より高かった。 ●様々な新しい人権が認められるようになった背景について説明するなど、社会的な思考・判断・表現に関する問題や、記述形式や短答式で答える発問への正答率は低かった。	・社会的な思考・判断・表現に関する問題や記述形式で答える問題への正答率が低いことから、考えを表現する力を高めるために、話し合い活動やレポート作成などを効果的に授業に取り入れる。 ・繰り返し学習を行う習慣づけを行う。 ・複数の資料の読み取りや活用の時間を、さらに充実させ確保していく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	66.2	71.5	66.8
	図形	68.9	73.8	70.4
	関数	42.1	47.8	41.6
	資料の活用	61.2	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	47.2	52.8	45.8
	数学的な技能	67.4	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	56.2	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

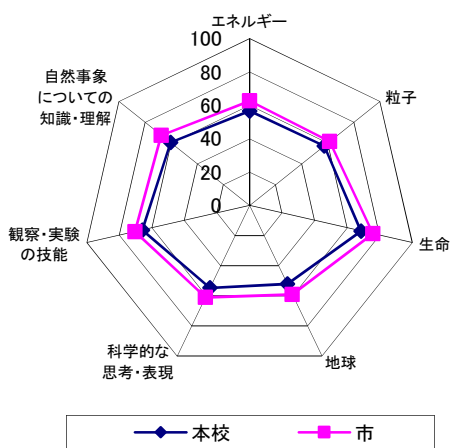
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率が市平均と比べ、－5. 3ポイントであった。 ○累乗を含む正負の数の加法ができるという問いに対し、市の平均を2. 4ポイント上回った。 ●自然数の意味を正しく理解する問いに対しては市の平均を－17. 4ポイント下回っている。	・用語の意味を理解するが、忘れてしまうので、復習をしっかりと行い、自然数に関連した問題が出てきたときに学び直しの機会を意図的に設ける。 ・分数を含む計算の機会を増やし、立式できた式の解まで求められるように、計算方法に慣れさせていく必要があるため、授業内で計算小テストを実施。
図形	平均正答率が市平均と比べ、－4. 9ポイントであった。 ○図形を平行移動させた距離について理解しているという問いに対しては市の平均を1. 1ポイント上回った。 ●折り目の線が垂直二等分線になることを理解し、作図をすることができるという問いに対しては市の平均を－11. 8ポイント下回っている。	・垂直二等分線や角の二等分線の性質を理解させるとともに、それを利用して作図をすることが苦手なので、繰り返し演習問題に挑戦させる。 ・証明の必要性をよく理解させながら、授業を進めていく。
関数	平均正答率が市平均と比べ、－5. 7ポイントであった。 ○比例の関係での、xとyの値の変化の関係について理解しているという問いに対しては市の平均を11. 0ポイント上回った。 ●関数について理解しているという問いに対しては市の平均を－11. 6ポイント下回った。	・「伴って変化する2つの数量の関係」についてよく理解できるように、授業で具体的な事象を明記して理解させる。 ・2年生で学ぶ「変化の割合」等、関数の基礎となる事項の指導を重点的に行う。
資料の活用	平均正答率が市平均と比べ、－5. 9ポイントであった。 ○グラフを読み取り、多数回の試行の結果から得られる確率を求める問いに対しては市の平均を2. 7ポイント上回った。 ●中央値について理解しているという問いに対しては、市の平均を－5. 6ポイント下回った。	・用語を理解する学習を授業に多く取り入れる。また、資料から読み取った内容を自分の言葉で表現する活動を通し、思考力を育む。 ・1年生の既習内容について学び直しの機会を作っていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	56.7	62.7	57.6
	粒子	57.3	61.5	57.7
	生命	68.5	75.8	72.1
	地球	52.2	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	54.7	61.0	54.8
	観察・実験の技能	65.9	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	60.5	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

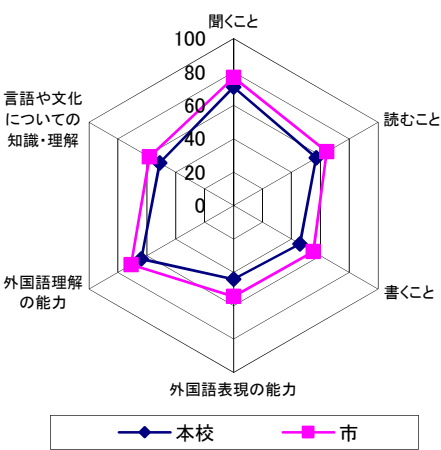
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	市の平均正答率と比べ、6. 0ポイント下回った。 ○電流値がわからない時の電流計のつなぎ方の問題では、市の正答率を8. 7ポイント上回った。 ●弦を張る強さと音の高さの関係を調べるための対照実験を考える問題では、市の正答率を15. 6ポイント下回った。 ●テープの長さから台車の平均の速さを求める問題では、市の正答率を15. 8ポイント下回った。	・電流計の使い方を丁寧に説明し、班員全員に実際に回路を組み立てさせたりして評価しながら授業を展開したため正答率が上がった。引き続き実験を丁寧に言い、操作や読み取り方の時間を確保する。 ・弦の張る強さと高さ、大きさの関係では、実験方法を丁寧に説明し、各班の実験結果を教師が確認する。また教師の実物での確認や視聴覚機器を使用し、学習内容の定着を図る。 ・速さを求める計算問題では、時間を確保し、一人ひとりの計算式と結果を確認する。また豆テストを実施する。
粒子	市の平均正答率と比べ、4. 2ポイントさらに、参考値より3. 6ポイント下回った。 ○鉄と硫黄の化合の実験の結果を求める問題、また誤った化学反応式を書き直す問題では、市の正答率を約1ポイント上回った。 ●鉄を他の金属との特徴や性質の違いから見分ける問題では市の正答率より9. 3ポイント下回った。	・実験を通して結果を出す過程を丁寧に言い、化学反応式の表し方を反復練習したり、豆テストを行ったため正答率がよかった。引き続き実験を丁寧に言い、生徒が実験から結果をまとめる時間を確保する。 ・実験とまとめについてポイントをしっかりと授業展開を心がける。また、学習内容の定着を図るため豆テストや反復学習を取り入れる。
生命	市の平均正答率と比べ、7. 3ポイント下回った。 ○シダのなかまの特徴を理解しているか問う問題では、参考値より8. 1ポイント上回ったが、市の正答率より下回った。 ●シダについての話し合い文章からシダ植物とコケ植物のからだのつくりを問う問題では、市の正答率より13. 4ポイント下回った。 ●卵、精子、体細胞の染色体について理解しているか問う問題では、市の正答率を11. 5ポイント下回った。	・実際に時期を選び、学校に自生しているシダ植物を使用して、観察を行った。今後も生物教材については実物をできるだけ観察させ丁寧にまとめる授業を展開する。 ・実験・観察のまとめにおいても、各班の話し合いや発表の時間を確保し、まとめ上げていく授業展開を意図的に準備する。 ・重要語句の名称やその意味が曖昧なままなので、語句の定着だけでなく、関連事項とのつながりを意識させる。そのためにも関連用語を使ってまとめる時間を設定する。
地球	市の平均正答率と比べ、6. 8ポイント下回ったが、参考値より7. 2ポイント上回った。 ○薬品を使って石灰岩を見分ける問題では、参考値を15. 8ポイント上回ったが市の正答率には及ばなかった。 ○地層が新生代に堆積したことを推測し、4つの文章から選ぶ問題では、参考値を12ポイント上回ったが市の正答率より7. 8ポイント下回った。	・主要な岩石や鉱物を実際に観察し、五感を通して理解するとともに割ってみたり、つくりや色を比較したり、塩酸との反応などを確認したりした。今後も観察目的を明確にし、観察時間・まとめを授業で確保する。 ・地層の成り立ちや地層からわかることについて考察する時間を確保し、発表や授業での話し合い場面を設定する。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	71.0	76.8	73.1
	読むこと	57.2	64.5	59.9
	書くこと	45.8	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	44.1	54.5	59.0
	外国語理解の能力	63.9	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	51.2	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	本市正答率を5.8、参考値を2.1下回った。 ○「英文の要点を聴き取ることができる。(祖父の職業)(内容と合っているもの)」「対話の内容を聴き取り、資料をもとに英語で答えることができる。」「語形・語法を理解することができる。(疑問詞+to不定詞)」で、全国正答率を平均4.1上回った。 ●全ての項目で、市正答率に達しなかった。特に、「対話の内容を聴き取り、適切に応答することができる。(どこへ行くのかとたずねられて)」「語形・語法を理解することができる。(make+(人)+形容詞)」では、市正答率を平均10.7下回った。	・「聞く」意欲は高く、平易な「聞き取り」では高い正答率を示す。しかし、長めの放送や、詳細を聞き分ける必要のある問題にあたると、丁寧に聞くことを疎かにしてしまう。また、類似の複数の情報の中から、正しい情報を聴き出すことも苦手としている。以上を踏まえ、今後は授業における英語でのやり取りを今後も継続し、学習の段階に応じて、分量・難易度を少しずつ上げていくようにする。また、補助教材に付属した「聞き取り素材」を十分に活用し、「聞き取り方」「答え方」の指導を充実させ、正答率を上げることができるよう指導する。
読むこと	本市正答率を7.3、参考値を2.7下回った。 ○「ブログの内容をもとに、適切な英語を判断することができる。」「my ideaの指す内容を把握することができる。」「読み取った内容をふまえて、英文を完成させることができる。」で、全国正答率を平均5.7上回った。 ●全ての項目で、市正答率に達しなかった。特に、「説明の内容と資料の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。」「対話の流れと案内図から、登場人物の行き先を判断することができる。」では、市正答率を平均11.0下回った。	・語彙力が十分でなく、調べながら「読む」という作業を疎んじる傾向がある。また、まとまった文章の概要を把握する力が十分でなく、全体像をとらえることを不得手としている。教科書の多くが対話文で構成されていることから、文章の「流れ」を捉える練習も十分ではない。以上を踏まえ、今後は補助教材等を活用し、「長い」「複雑な」「複数の類似情報がある」文や文章を「読む」機会を段階的に増やし、根気強く読み進める練習を積み重ねる。また、概要を捉えてから詳細を読み取る練習を意図的に取り入れ、正答率を上げることができるよう指導する。
書くこと	本市正答率を9.5、参考値を13.9下回った。 ○「単語を正しく書くことができる。(再び)」で、市正答率を1.6、全国正答率を13.0上回った。 ●14小問中13問で、市正答率に達しなかった。特に、「単語を正しく書くことができる。(くもりの春)」「英文を正しい語順で書くことができる(完了を表す現在完了の文)」「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。」「一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった5文以上の英文を書くことができる。」では、市正答率を平均12.6下回った。	・書く「内容」を決めることが得意ではなく、書き出すまでに時間がかかる。また、自分の思いを表現するための語彙(日本語、英語共に)が不足していることから、言葉を選んだり単語を調べたりする作業を疎んじてしまう。以上を踏まえ、今後は授業における音読を十分にを行い、語順をリズムで覚えることができるようにする。また、基本文を暗記させたのちに書かせるなどして、正しい文の定着を図る。更に、日頃から身近な物事への自分の考えや気持ち、世の中の様子への関心についての問答を重ね、「書く」材料を豊富に持てるようにし、正答率を上げることができるよう指導する。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立宝木中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎「わかる授業」のより一層の推進	(1)『分かる授業』の推進 ①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な提示	「学校の授業がどの程度わかりますか」について ○1年生91.1%(市86.7%、昨年度90.3%) ○2年生88.7%(市82.1%、昨年度79.5%) ●3年生71.2%(市80.8%、昨年度78.7%)
	②話し合い活動の積極的な導入	「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している」について ●1年生77.2%(市80.4%、昨年度81.9%) ○2年生83.7%(市82.1%、昨年度80.4%) ●3年生78%(市83.3%、昨年度77.9%) 「自分の考えを根拠を上げながら話すことができる」について ●1年生57.7%(市67.7%、昨年度68.8%) ○2年生72.3%(市71.4%、昨年度64.3%) ●3年生66.9%(市76.8%、昨年度67.2%)
	③「ふりかえり」活動の徹底	「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」について ●1年生80.5%(市80.8%、昨年度86.1%) ○2年生85.1%(市77.4%、昨年度72.3%) ●3年生72%(市78.3%、昨年度73%)
◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実	(2)家庭学習の習慣化	「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」について ●1年生39%(市51.4%、昨年度79.9%) ○2年生78.7%(市46.8%、昨年度56.3%) ○3年生51.7%(市49.2%、昨年度49.2%) 「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」について ●1年生51.2%(市62.7%、昨年度72.2%) ○2年生65.2%(市58.2%、昨年度56.3%) ●3年生64.4%(市66.9%、昨年度65.6%) 「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」について ●1年生71.5%(市77.7%、昨年度84%) ○2年生82.3%(市70.8%、昨年度61.6%) ●3年生71.2%(市75.9%、昨年度73.8%)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

(1)『わかる授業』のより一層の推進に向けて

- ①「本時の目標（めあて、ねらい）」の確実な提示
 - ・毎時間の学習課題に即した目標（めあて、ねらい）の提示をさらに徹底させる。
- ②効果的なノートの活用
 - ・教科担任による板書の工夫や学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導をより一層充実させ、見本となるノートの例を学年の廊下に掲示して褒める指導を行う。
- ③生徒の考えを引き出し、思考を深められる（主体的に考えられる）発問の工夫
 - ・教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開方法をさらに工夫することで、教師間の学び合いを通じた授業力の向上を図る。
- ④話し合い活動の積極的な導入
 - ・授業の中で、生徒同士の意見の交換の場面を、より意識的に増やして、学習活動に積極的に臨めるようにする。
 - ・グループ活動や発表会など、各教科担任による話し合い活動をより一層充実させる。
- ⑤「ふりかえり」活動の徹底
 - ・ワークシートやチェックテストなどを活用して、毎時間の学習課題に即した振り返りを確実に実施する。

(2)家庭学習のより一層の充実にに向けて

- ①学習に対する家庭の関心を高める工夫
 - ・三者懇談、教育相談、学校だより、学級だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実する。
- ②自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛
 - ・学級担任による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言や認める指導を充実する。
- ③家庭学習の仕方を明示、説明
 - ・「家庭学習の手引き」を活用し、生徒には年度初めのオリエンテーションで、保護者には保護者会で家庭学習の仕方を説明する。
 - ・定期テスト前など、定期的に教科担任から復習方法の指導を行う。